

# 持続可能なエネルギーへのシフト

枝廣淳子 有限会社イーズ代表

私たちの暮らしは、電力やガス、ガソリンなどのエネルギーに支えられています。電気がなかったら、夜になれば真っ暗だし、家電製品は使えないし、ガスがなければ、煮炊きもお湯を沸かすこともできず、温かいお風呂やシャワーも使えないでしょう。ガソリンがなければクルマも動きません。

食べ物もそう。今の食物の多くは、石油や天然ガスがなくては作れない構造になっています。トラクターやトラック、漁船を動かすにもガソリンや軽油が必要です。温室は重油を炊いて温めていますし、現代農業に不可欠な化学肥料の主な原料は天然ガスなのです。ある科学者の計算によると、「1キロカロリーの栄養を作るのに、10キロカロリーの化石燃料を使っている」とか。

私たちの暮らしがエネルギーに支えられているとしたら、エネルギーが足りなくなってくれば暮らしにくくなってくる、安全ではないエネルギーに頼っていたら、暮らしも安全ではない、ということです。

足りなくなることを心配したり、安全・安心に「？」がつくエネルギーではなく、「心配せずに、安心して、いつまでも使い続けられるエネルギー」がいいですね！

安心してずっと使い続けられる「持続可能なエネルギー」は、石油、石炭、天然ガスではありません。こういった化石エネルギーは掘り尽くしてしまえばなくなってしまい、燃やすと二酸化炭素を大気中に出して温暖化を進め、地球環境や私たちの持続可能性を脅かすからです。原子力発電でもありません。ウラン自体が化石燃料と同じく、掘りつくしてしまえばなくなってしまいますし、核廃棄物を処理する安全で安心な方法も見つかっていません。世界中で原子力発電を使うようになったら、核兵器を作る力も世界中に広がってしまう危険性があります。それに、地震国である日本では、地震による原発の事故や停止を考えると、なおさら「安全・安心・持続可能」ではありませんよね。

では、安心してずっと使い続けられる「持続可能なエネルギー」とは何でしょう？ そう、太陽光や風、地球の熱（地熱）などのエネルギーです。太陽光と水と土中の栄養のおかげで成長し続ける森林や植物も、毎年成長した分だけをじょうずに使い続けられれば、持続可能なエネルギー源です。

現在の世界は、「持続可能ではない化石エネルギー」から、「持続可能な自然エネルギー」へシフトしつつあります。ただだって、安心して暮らしたいですからね！スウェーデンのように、その移行をドンドン進めている国もあれば、これまでのエネルギーのしがらみが強くて、ソロソロとしか動いていない国もあります。待っていてもよいことはありません。だったら、ドンドン行きたいですね！

日本のエネルギーを「安心していつまでも使い続けられるエネルギー」に変えていくために、私たちひとりひとりが何を知るべきか、考えるべきか、おこなうべきか——この映画はそんなことをじっくり考えさせてくれます。

日本の経済や社会、暮らしを動かすエネルギーがすべて「安心していつまでも使い続けられるエネルギー」になったら、どんなに素敵でしょう！未来の世代にも胸を張ってバトンタッチできることでしょう。そんな素敵になりうる日本の姿に向けて、奇跡のようにこの時代に生を受けた仲間として、ぜひいっしょに考えてみませんか。



有限会社イーズ代表。 <http://www.es-inc.jp/>  
環境ジャーナリスト、翻訳家。

2つの会社を経営する傍ら、執筆、講演、翻訳、環境NGO運営など、環境を軸にマルチキャリアを展開中。これらの活動経験やノウハウを活かし、ビジョンづくりや自分マネジメントのコーチングを提供するほか、「システム思考」の普及に力を入れている。

著書に『朝2時起きで、なんでもできる!』『地球とわたしをゆるめる暮らし』『企業のためのやさしくわかる「生物多様性」』、訳書に『不都合な真実』『地球の法則と選ぶべき未来』『つながりを取りもどす時代へ』ほか多数。